

出版物のデザインの比較検討

08 | 4315 小出 直輝

1. はじめに

この論文で明らかにすることは出版社・形態・時代・ジャンルなどの違いがいかにデザイン（主に組版）に影響しているかである。

2. 出版物製作の流れ



3. 組版とは

組版とは原稿を本のページの形に直す作業のことである。

フォント、文字サイズ、字送り、字詰、行送り、行数、改丁（改頁）を決めれば、最低限のページの形にはなるが、読みやすい組版にするために、調整がなされる。

4. 組版が本に与える影響

遠藤らの研究によれば、読書意欲（本が持つ、読みやすさ、快適さ、美しさなど）はページデザインの中でも、「行間」と「文字サイズ」の2つの要素に影響を受けやすい、と結論付けている。

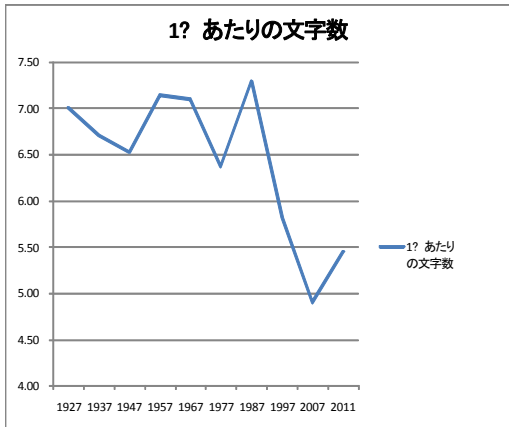
5. 組版が本に与える影響の調査

(1) 文庫本の組版の比較

愛知大学豊橋校舎に存在する20種類の文庫本シリーズについて、その組版を調査した。文庫間での大きな違いはなかった。

(2) 岩波文庫の年代による組版の比較

「岩波文庫」について、1927年の創刊時から10年ごとの組版を調査した。近年になって面積あたりの文字数が低下している。



(3) 岩波文庫の改版による組版の比較

1937年出版の「レ・ミゼラブル」と、1987年の改版の組版について調査した。改版によって行数が増加し、余白が減少した。

(4) 同一小説の出版形態の違いによる組版の比較

「ノルウェイの森」について、ハードカバー版、文庫版、全集版の組版を調査した。通常版と文庫版はレイアウト比率は変えずサイズだけ縮小している。全集版は字詰・行数が増加し余白・行間が縮小して、ページ数を少なくしている。

(5) 同一作者の異なる出版社での組版の比較

村上春樹氏の6作品について、異なる6社の出版社の組版を調査した。「将門記」を除いて大きな違いはなかった。

6. 考察

(1) 組版を左右する要因

組版の違いを左右する要因として、「出版社」「時代」「形態」「内容（ジャンル）」の違いを調査したが、その中でも「内容（ジャンル）」の違いが組版に最も大きな影響を与えていると考察する。

(2) 現代に求められる組版

調査結果から、現代に求められる組版とは、余裕のある組版であると考えられる。ここでの余裕のある組版とは、「行間の広さ」「字間の広さ」（＝行数・字詰め）が適度に広く、「文字サイズ」もある程度の大きさをもっている組版である。こうした組版の変化の要因として、「技術の発展」「読者ニーズの変化」「情報媒体の充実」の3つが考えられる。

(3) 組版の将来

組版技術とは、文字の羅列に読みやすさ（魅力）を付与する技術である。近年、電子書籍という新たな存在も生まれ始めた。その中で組版には、書籍にしか出せない魅力を与えることと、新たな電子書籍に対応した組版技術の確立が求められると考える。